

最後のふよう教室です。1年間ありがとうございました。

本年度最後のふよう教室となりました。昨年と同様に8回の開催で、時期によって参加者の人数に偏りはありませんでしたが、7回以上参加された方が3名おられました。ふよう教室に参加されたみなさん、『継続は力なり』と言いますが、これからは様々なことに挑戦し取り組んでいってください。



今年も、ふよう教室を3名の方が卒業されます。ここで培った力を糧にそれぞれの学校で頑張ってください。ふよう教室を卒業されてからも、何かあればいつでも学校までご相談ください。ここでの保護者同士や教職員とのつながりを、是非、大切にしていっていただければ幸いです。

今年度最後のコラムは、これからの冬、どうしても家に閉じこもってゲームをすることが多くなると思うので、室内でできる冬の遊びについて紹介します。

【コラム31】 伝統的な手遊び ～おはじき・お手玉・あやとり～

最近、伝統的な手遊びを見かけることが少なくなってきましたが、実はとてもいろいろな発達を促す要素が含まれているので、手軽に家ですぐできる三つの遊びについて紹介したいと思います。

あやとり



◆ 1本1本の指や左右の指で違う動きをしたり、順序通りに指を動かしたりしていくことが必要です。空間のなかで、糸を操作するので3次元(立体)をとらえる力がつきます。決まったパターンだけでなく、「これは〇〇だよ。」などと、自分でイメージを膨らませながら遊ぶことも出来ます。

※ 教えるときは、正面からではなく、子どもさんの横に座って横から教える方が空間をとらえやすく、わかりやすいです。

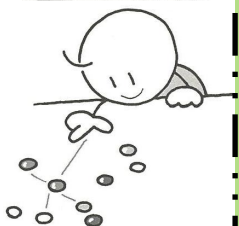
お手玉



◆ 二つのお手玉を使います。片手で一つを空中に投げながら、もう一方の手からくるお手玉を受け取ります。お手玉を目で追うこと、一定の高さにリズムよく投げること、左右の手のタイミングなど、協調した両手の動きが必要です。

※ 上手にできるようになったら、歌にあわせて投げてみることに挑戦してみましょう。

おはじき



◆ 机の上などに広げたおはじきを親指と人差し指を使ってはじき、別のおはじきに当てるゲームです。はじくときは、親指と人差し指に力が入りますが、あまり力が強すぎるとこかにとんでいってしまい、なかなか難しいです。力を調整したり、はじく方向をコントロールしたりする指先の動きが大切です。また、おはじきがちらばっている位置(空間)全体の関係がわかり、どのおはじきに当てるかの段階で、おはじきとおはじきの間の空間関係がわかることも必要となってきます。

◎指先の力加減…手遊びで必要なのは、思い切り力を出し切るよりは、そっとはじく、軽く投げるなど、少し抑え気味に力を調整する能力です。力の調整が上手くできず、物の操作が乱暴になりがちなお子さんにとっては、このような遊びを通して力加減を体験することがとても有効です。この機会に、子どもの頃を思い出して、懐かしい遊びを子どもさんと一緒に、是非してみてください。